

# 家庭学習応援だより

## 第8号

2022年、上島東小学校最後の学期がスタートしました。このお便りも閉校とともに廃刊でしょうから、3月まで、できる限り保護者の皆様には有益な情報を発信していきたいと思っております。最後までお付き合いください。

さて、先日2日間にわたり「県学力診断テスト(4～6年生)」が行われました。現在は、各学年で採点作業を行っているところです。学力診断テストの結果については、次号で触れていきたいと思っております。今号では、12月に行われた「英語力向上アセスメントテスト(6年生)」など、英語(外国語)にまつわる記事を掲載していきます。というのも、英語の学習は、令和2年度に小学校でも**教科化**され、今や小学3年生から英語を学んでおり、小学校でも英語の学習に注目が集まっています。中学校になると英語の教科としての重要度が増していくのは、保護者の皆様ならよくお分かりでしょう。英検以外の検定や資格も年々増え、英語が注目されているのは確かです。保護者の皆様の中には、「中学校に入る前に少しでも英語に触れさせておきたい。」とお考えの方もいるかもしれません。私たち親世代とは違う「今」の英語学習を考えてみたいと思っております。

## 小学英語の「今」とこれから



「What do you like?」、「This is for you.」、「star/banana/green/soccer…」、この英語、何年生で習うか、わかりますか?……答えは、3年生です。小学校では次のような授業が行われています。まずは全体像を見て、学習内容を確認してみてください。



### 3年生 英語に親しむ学習が始まる

- ・アルファベットの大文字に親しむ
- ・様子や感情を表す言葉、好きな色を英語で伝える



### 4年生 英語の表現やリズムを身に付ける

- ・アルファベットの小文字に親しむ
- ・好きな曜日や時刻を英語で伝える



### 5年生 国語や算数と同じ教科として学ぶ

- ・アルファベットの大文字、小文字を読んだり書いたりする
- ・学校生活や誕生日を英語で伝える



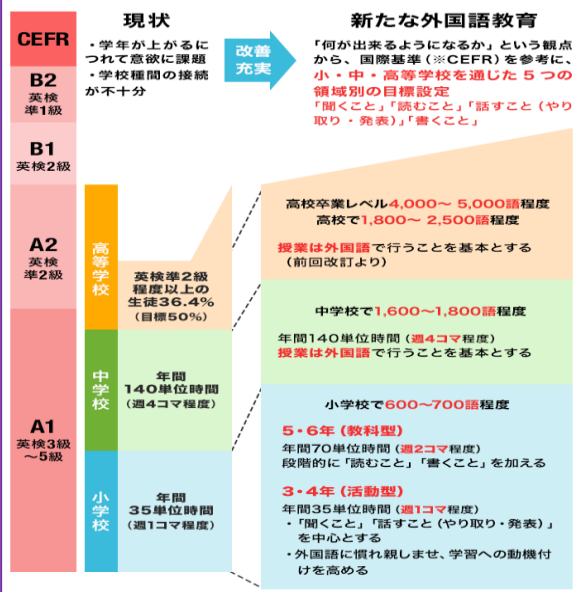
### 6年生 中学校への大事なつなぎの時期

- ・自己紹介や将来の夢などを英語で伝える
- ・過去の表現にも触れる

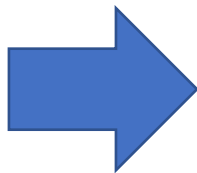
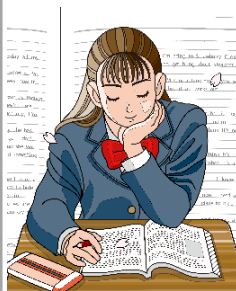
小学校の英語学習がおおむねわかりいただけましたね。では、小学英語が、中学校以降の英語学習にどのようにつながっていくのかが気になるところです。また、昔(2011年よりも以前)とどのように違うのでしょうか。

中学校は、**コミュニケーション**を重視した内容になり、使用する**単語数**が1200語から**1800語**に増加します。また、会話の要点を理解したり、短い日常会話をしたりするなど、いわゆる**4技能(書く、読む、話す、聞く)**をバランスよく伸ばすことが求められてきます。さらに、授業がすべて英語で行われることも検討されています。目標とされる英語のレベルは、**CEFR(セファール)**の**A1～A2レベル**(英検3～準2級)です。

## 外国語教育の抜本的強化のイメージ



高校では、さらに高度な英語学習になるようです。例えば、時事問題の資料を理解したり、求められる内容に応じたメールやレポートを書いたりする能力が必要となります。また、幅広い内容を英語で詳しく説明するなど、**実用的な英語**を身に付けることが目標となります。目標レベルは、CEFRのB1~B2(英検2~準1級)とされています。右図が、文部科学省が示している外国語(英語)教育の強化イメージです。



## 1からわかる小学英語 Q&A

小学校から高校までの英語学習については、おおまかにはわかったけど、まだまだ知りたいことはたくさんありそうな小学英語。家庭での学習もどう手を付けたらよいものか、お悩みの方もいるはず。ここでは、中学英語のスペシャリスト、本校教頭がそんな方々の疑問にお応えします。

### 小学生は、家庭でどんな勉強をしたらいいの？

・英語のテレビ(NHK)を視聴したり、余裕があれば教材を購入したりしてもよいかもしれません。また、小さいころから耳に「**慣れさせる**」のが**ポイント**です。特に、4技能のうちの「**話す・聞く**」を中心に練習するのがよいと思います。慣れる時期が早ければ早いほうが発音はきれいになります。

### 親は英語が苦手なので、塾に行かせたほうがいいですか？

・自分が苦手なものは、外部に力を借りたくなるものです。英語の塾は、子供が楽しく学べるポイントをよく押さえています。家庭で教材を購入する際も、**ポイント**は、子供が**学ぶ**というよりも、**遊びの感覚**で取り組むことです。とにかく、「**慣れる**」という感覚を大事にしてほしいと思います。

### 「英語が得意になってほしい」何かやらせておくべき？

・「子供が英語を自由に話せたら、進む世界が広がりそう。」そう考えると、早く英語をやらせたいのが親心というものです。現在は教材以外にも、海外に旅行に行ったり、海外で仕事をしたりするなど、英語は小さいうちから始めようと思えば始められる環境になってきています。一般の家庭でも、子供が英語に興味を持てるよう、**映画や音楽**などに触れさせることはできると思います。

おわりに

ある子育ての本のコラムで「**温室の中の盆栽**」という言葉を目にしたことがあります。そのコラムでは、子育ての例えとして紹介されていました。

コラムで紹介されていたある事例を1つ紹介しますので、何を意味しているのか考えながらお読みください。  
**事例:**あるテレビ番組で、大学生の子供を持つ保護者向けの就職説明会をしている場面がありました。大学職員の説明後、会場にいたある保護者が、「近年の就職試験では、タフな人材が求められているそうですが、家庭で(母親が)できることって、何かありますか?」という質問をしました。

このコラムの筆者は「ハタチを超えた子供の親がする質問ですか!? かえってお子さんをタフな人材から遠ざけていませんか?!」と思ったそうです。皆さんは、どのようにお感じになったでしょうか。